

PRESS RELEASE 2011年1月4日(火)

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

## ハイチ大地震 発生から1年 ～駐在スタッフへのご取材依頼を受け付けています～

2010年1月12日に発生したハイチ大地震から、まもなく1年を迎えます。マグニチュード7.0の大地震により、首都ポルトープランスは壊滅的な被害を受け、22万人が死亡、33万人が負傷し、人口の3分の1にあたる300万人が被災しました。うち、150万人が18歳以下の子どもたちです。また、100万人以上が家を失い、現在も多くの被災者が、避難キャンプでの生活を余儀なくされています。

ハイチ大地震で被災した人々のために、およそ1億9,400万ドルの募金が、日本を含む各国のワールド・ビジョンへ寄せられました。大地震により、ワールド・ビジョン・ハイチの事務所もダメージを受け、スタッフやその家族自身も被災するなかでしたが、発生当初より、懸命な支援活動を続けています。

### 1年間での支援実績(一部)

- ・ 35万448人の被災者に、トイレ紙、石けん、歯みがき粉、調理器具、ベッドシーツ、毛布、バケツ、蚊帳、マット等の緊急支援物資を届けました
- ・ 発生後3カ月間で、22万9,763世帯に食料を届けました
- ・ 8～10月の間、454校の学校で7万938人の子どもたちに給食を実施しました
- ・ 学校以外のフードセンター180軒で、4万9,200人の子どもたちに食料を届けました
- ・ 13万2,153人の被災者に、1億8,960万リットルの飲料水を届けました
- ・ 620世帯に、より恒久性の高い仮設住宅を支給しました
- ・ 1,988人が、ガーデニング、石工、大工などの技術を学ぶ職業訓練に参加しました
- ・ ポルトープランス市内の11カ所の避難キャンプと、国境地帯にある3カ所の避難キャンプで、計11軒のヘルスクリニックを運営しています



駐在中の加藤スタッフ

しかし、地震発生以前から政府が機能していなかったこと、また最貧国の一つであったことや、首都を襲った直下型地震であったこと、地震によって現地の人道支援団体(国連、NGO等)も大きな被害を受けたこと、コレラの感染拡大やハリケーンの発生など、多くの要因が重なり、復興にはまだ多くの時間がかかることが予想されます。

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、地震発生直後から緊急支援を実施しており、現在も海外事業部緊急人道支援課の加藤奈保美(かとう なおみ)スタッフがポルトープランスに駐在し、水・衛生事業に従事しています。また、2011年1月5日(水)～11日(火)まで広報担当者が現地入りし、報道関係者の方々からの、加藤スタッフへのご取材依頼を受け付けております。詳細は、下記担当者までお問い合わせください。

### ★本件に関するお問い合わせ先★

【担当】蘇畑(そばた)光子、堀切かおり 【Eメール】[msobata@worldvision.or.jp](mailto:msobata@worldvision.or.jp) 【ハイチでの連絡先】090-6567-9711  
【日本国内での連絡先】080-3588-9237 / 03-3367-7253 【FAX】03-3367-7652

### ★ワールド・ビジョン・ジャパンとは？

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは、国連経済社会理事会に公認・登録されたキリスト教精神に基づく国際NGO、ワールド・ビジョンを構成している日本の民間援助機関です。当団体は国税庁に認定NPO法人として認定されており、皆さまからのご支援金は、寄付金控除の対象となります。詳しくは <http://www.worldvision.jp> へ